



関西大学 ルーブリックを活用した 学習成果の可視化

—学生の学びを支えるために—

関西大学 教育推進部 岩崎千晶
多田泰紘

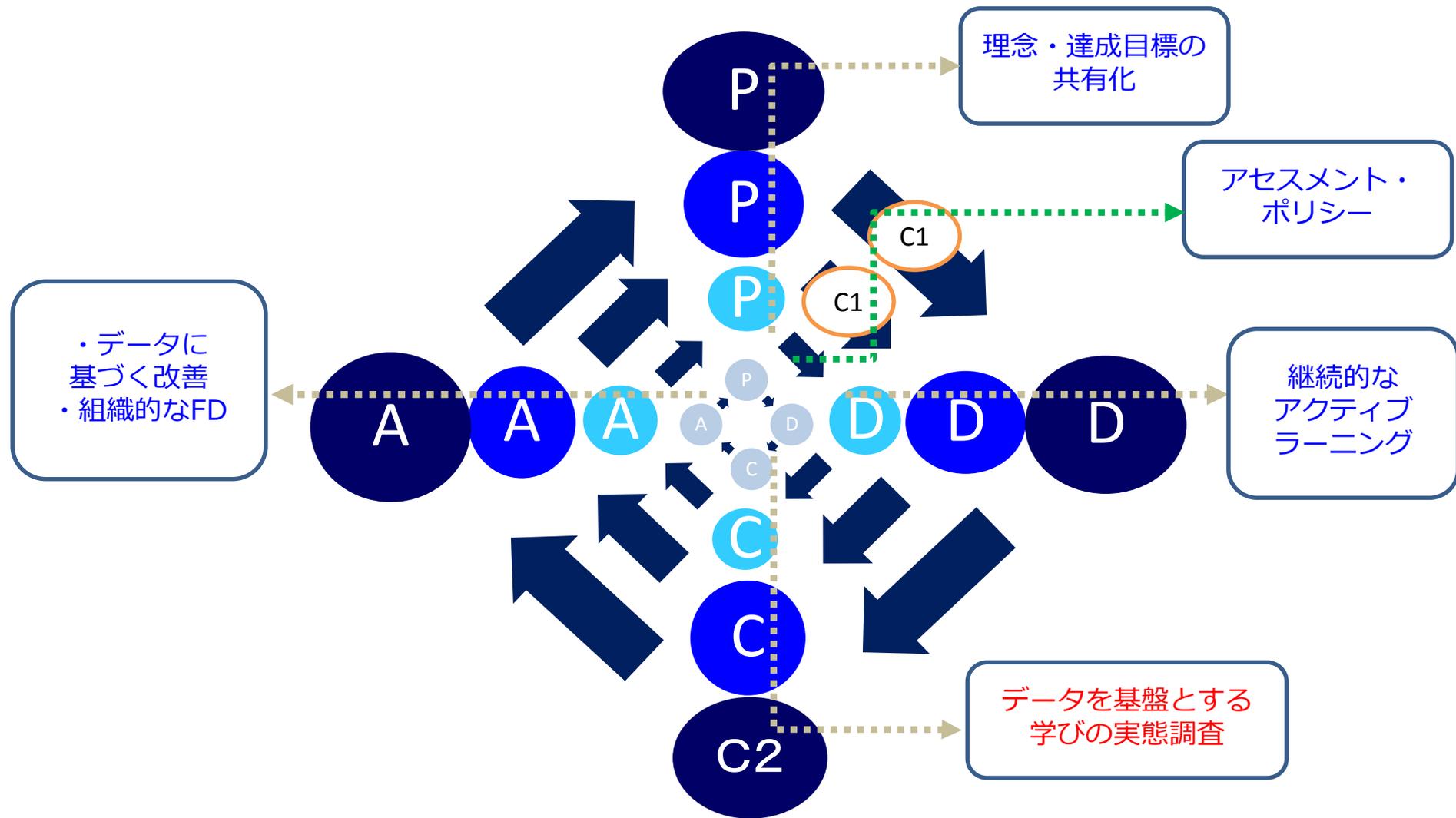


- 関西大学の内部質保証デザイン
- ルーブリックを活用した学習成果の可視化とその支援
- ルーブリックを活用した教育の質向上に関する事例
- まとめ

関西大学の内部質保証デザイン

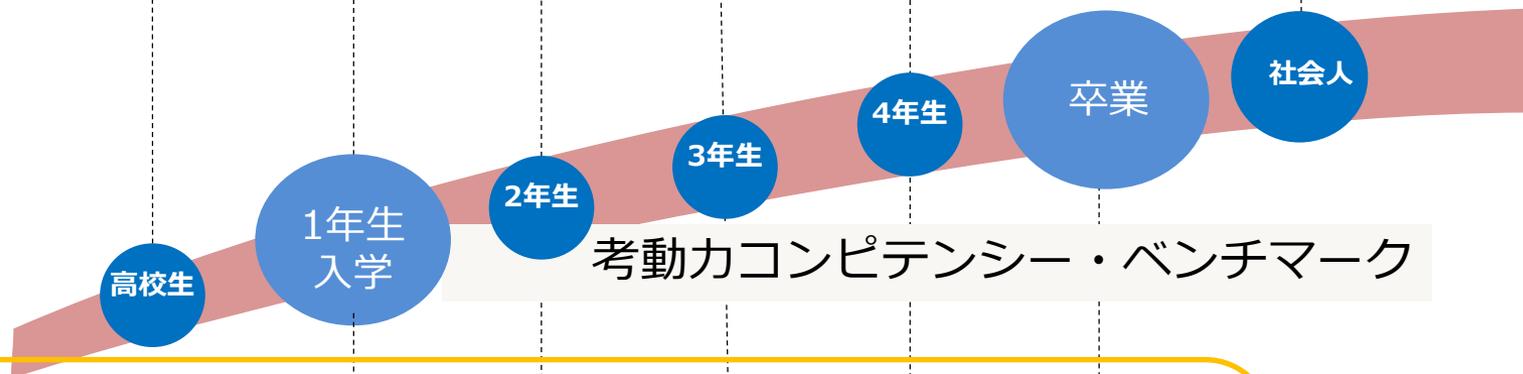
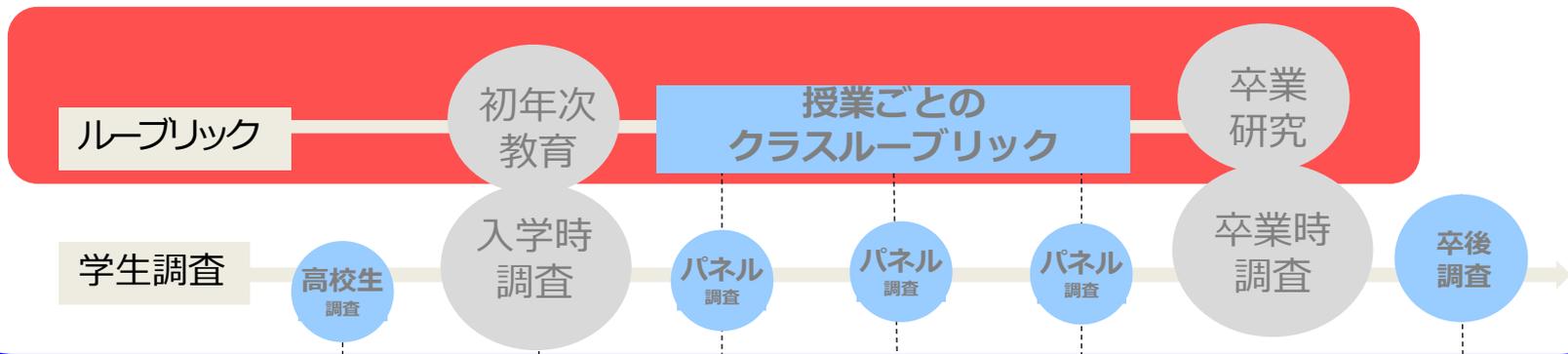


内部質保証システムの重層化



アセスメント・プラン

間接評価



直接評価



アセスメントリスト (一部)

| レベル | 名称 | 実施時期 | 周期 | 対象年次 | 評価項目 | DPとの対応 | 手法 | 評価者 | 実施責任者 | 結果の活用 |
|-----|--------------------|-------|------|----------|---|--------|----------------------|---------|--------------------|---|
| ミクロ | 授業評価アンケート | 7月,1月 | 毎年 | 1~4年 | ・授業の理解度 ・授業の満足度 ・学習行動 | 学部DP全体 | 質問紙 | 学生 | 授業支援G | ・授業担当者へのフィードバック ・FD |
| ミクロ | 成績評価 | 8月,2月 | 毎年 | 1~4年 | ・理解度の把握 | 学部DP全体 | 各種 | 教員 | 各学部 | ・補習および個別指導 |
| ミドル | 共通教養 GTEC | 2月 | 2回のみ | 1, 2年 | ・英語の知識, 運用能力 | 大学DP_2 | 記述 | 英語授業担当者 | 外国語学部・教務センター | ・習熟度別クラス分け ・授業担当者へのフィードバック ・FD |
| ミドル | 入学時調査 | 入学時 | 1回のみ | 入学生 | ・大学および学部入学本意度 ・高校の学習行動および経験 ・考動カコンピテンシー調査 ・大学での学習意欲 ・大学生活での不安 ・キャリア志向 ・学部独自項目 | 学部DP全体 | 質問紙 | 学生 | 各学部+ 教学IRプロジェクト | ・大学執行部への報告 ・学部執行部への報告 ・学部教授会および職員会議での報告 ・学生へのフィードバック |
| ミドル | パネル調査 | 随時 | 1~3回 | 1~3年 | ・授業理解度 ・学習行動および経験 ・考動カコンピテンシー調査 ・大学生活での不安 ・学習意欲 ・キャリア志向 ・学部独自項目 | 学部DP全体 | 質問紙 | 学生 | 各学部+ 教学IRプロジェクト | ・学部執行部への報告 ・学部教授会での報告 ・学生へのフィードバック |
| ミドル | 初年次教育ポスト調査 | 1月 | 1回のみ | 1年 | ・授業理解度 ・学習行動および経験 ・考動カコンピテンシー調査 ・学習意欲 ・学部独自項目 | 学部DP全体 | 質問紙 | 学生 | 各学部+ 教学IRプロジェクト | ・学部執行部への報告 ・学部教授会での報告 ・学生へのフィードバック |
| ミドル | 初年次教育プログラム評価(直接評価) | 7月,1月 | 1回のみ | 初年次教育担当者 | ・プレゼンテーション ・レポートライティング ・その他プログラムの達成目標 | 学部DP全体 | 発表会 および レポート提出 | 教員 | 各学部+ 教育開発センター | ・成績評価に反映 |



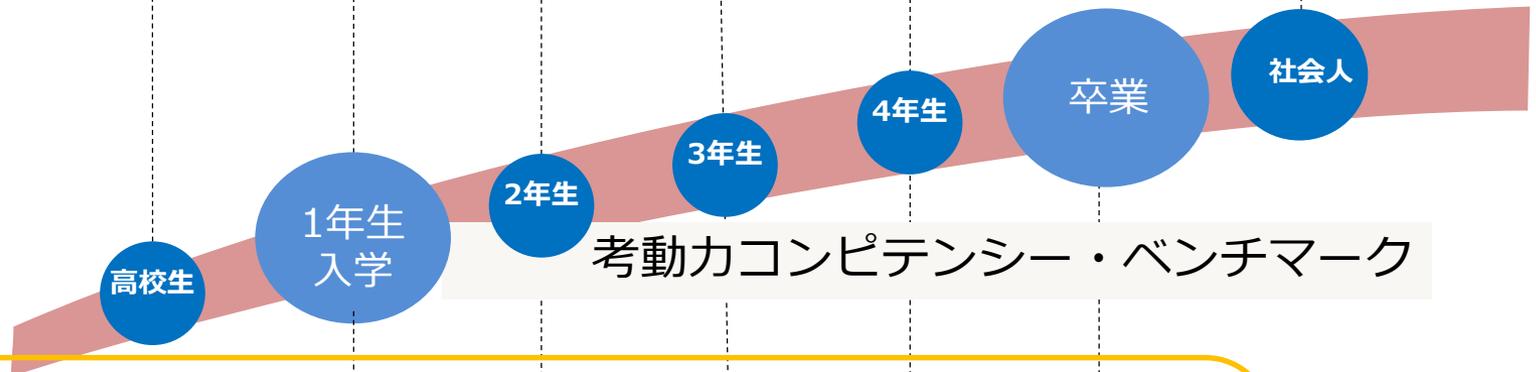
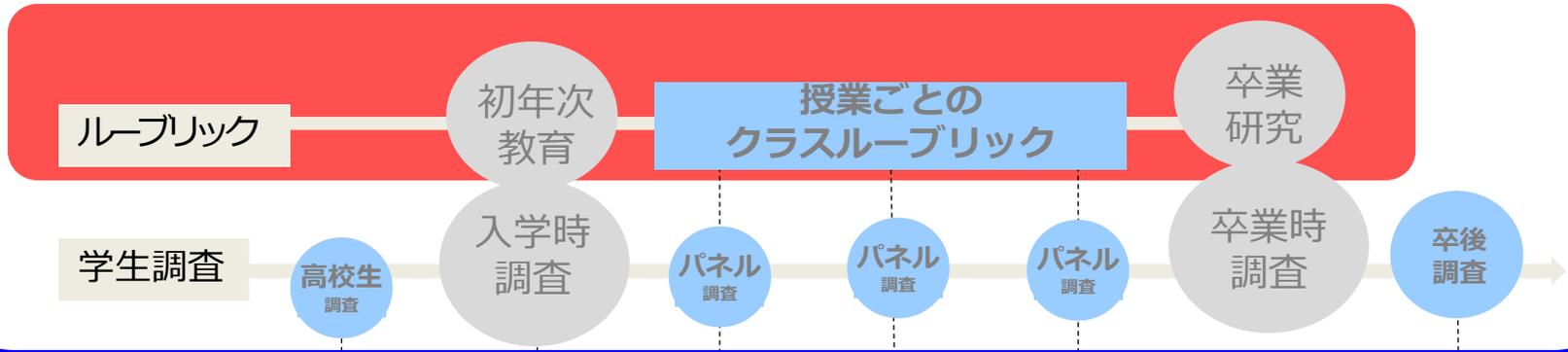
アセスメントチェックリスト (一部)

| | レベル | 名称 | 評価種別 | 実施時期 | 周期 | 対象年次 | 知識 | 自律力 | | 人間力 | | 社会力 | | 国際力 | | 革新力 | | リテラシー | | | |
|---|-----|--------------|------|-------|------|----------|----|-------|-------|---------|-------|----------|-------|----------|-------|-------|-------|-------|---------|--------|---|
| | | | | | | | | 思考判断力 | 生涯学習力 | リーダーシップ | 傾聴と発信 | 社会の規範と課題 | 社会に貢献 | 英語の習得と活用 | 異文化理解 | 価値の創出 | 問題解決力 | 表やグラフ | 情報の取捨選択 | ライティング | |
| 1 | ミクロ | 授業評価アンケート | 間接 | 7月,1月 | 毎年 | 1~4年 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | ミクロ | 成績評価 | 直接 | 8月,2月 | 毎年 | 1~4年 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | ミドル | 共通教養 GTEC | 直接 | 2月 | 2回のみ | 1, 2年 | ◎ | | | | | | | ◎ | ○ | | | | | | |
| 4 | ミドル | 入学時調査 | 間接 | 入学時 | 1回のみ | 入学生 | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |
| 5 | ミドル | パネル調査 | 間接 | 随時 | 1~3回 | 1~3年 | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |
| 6 | ミドル | 初年次教育ポスト調査 | 間接 | 1月 | 1回のみ | 1年 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 7 | ミドル | 初年次担当者調査 | 間接 | 1月 | 1回のみ | 初年次教育担当者 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | ミドル | 初年次教育プログラム評価 | 直接 | 7月,1月 | 1回のみ | 初年次教育担当者 | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | ○ | ○ | |



アセスメント・プラン

間接評価



直接評価



学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1（知識・技能）

幅広い教養に裏打ちされた専門的知識・技能を修得し、それらを総合的に活用することができる。

2（思考力・判断力・表現力等の能力）

グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、「**考動力**」を発揮して社会に貢献することができる。

3（主体的な態度）

自らの**学びに責任**を持ち、直面する課題に**主体的**に取り組むことができる。

学校法人関西大学全体のキーコンピテンシー

1

自律力

・思考判断力 ・生涯学習力

2

人間力

・リーダーシップ ・傾聴と発信

3

社会力

・社会の規範と課題 ・社会に貢献

4

国際力

・英語の習得と活用 ・異文化理解

5

革新力

・価値の創出 ・生涯学習力



キーコンピテンシーベンチマーク（一部）

| 能力 | 大項目 | 中項目 | 中項目の説明 | レベル3 | レベル2 | レベル1 |
|-----|----------|--------------------|---|--|--|--|
| | | | | 卒業生レベル | 2、3年生レベル | 初年次生レベル |
| 自律力 | 思考判断力 | 批判的思考力 | 与えられた情報を鵜呑みにせず、多くの資料から情報を抽出、理解し、物事の関係性を推測しながら、多面的・客観的にとらえることができる。 | 多数の情報に分析・評価を加えて、物事の複数の側面と関係性を理解、推測できる | 複数の情報に分析・評価を加えて、物事の複数の側面を理解、推測できる。 | 少数の情報をそのまま用いて、物事のひとつの側面を理解、推測できる。 |
| | | 論理的思考・演繹力 | | | | |
| | 生涯学習力 | 生涯学習力 | 自らの行動や態度を振り返り、自己の成長を視野に入れて、自律的に学び続けることができる。 | 自らの行動や態度を客観的に振り返り、自己の成長を視野に入れた学びを、自律的に行うことができる。 | 自らの行動や態度を客観的に振り返り、将来必要になる知識・技術の習得を行うことができる。 | 自らの行動や態度を文脈依存的に振り返り、その時に必要とされる知識・技術の習得を行うことができる。 |
| | | メタ認知 | | | | |
| 人間力 | リーダーシップ | リーダーシップ | 所属する集団の目標を考え、目に見える形で確立するとともに、活動の優先順位や基準を定め、行動することができる。 | 集団の目標を自ら明確化し、活動の優先順位や基準を定めて行動することができる。 | 集団の目標について自ら考え、活動の優先順位や基準を見直すことができる。 | 教えられた集団の目標に沿って、活動することができる。 |
| | 傾聴と発信 | 傾聴と発信を用いたコミュニケーション | 話しやすい状況を作り他者の意見を引き出すとともに、自分の意見をわかりやすく整理した上で、傾聴と主張のバランスを取りながら自他の主張を行うことができる。 | 話しやすい状況を作り、自分の意見をわかりやすく整理したうえで、傾聴と主張のバランスを取りながら主張することができる。 | 話しやすい状況を作り出し、自分の意見を整理するなど、傾聴と主張のバランスを取ろうと試みながら、主張することができる。 | 予め設定された状況で、他者の意見を聞き、自分の意見を主張することができる。 |
| | | 傾聴力 | | | | |
| | | 発信力 | | | | |
| 社会力 | 社会の規範と課題 | 社会課題解決 | 社会が抱えている課題を把握し、集団や社会のルールを守りながら、解決に向けて行動することができる。 | 社会が抱えている課題を具体的に把握し、その解決に向けて他者と協同して行動できる。 | 自らが置かれている集団、社会の中で良識ある振る舞いをするとともに、そこでの課題を具体的に把握し、解決に向けて行動できる。 | 自らが置かれている集団、社会のルールを尊重することができる。 |
| | | 社会規範遵守 | | | | |
| | 社会に貢献 | 社会貢献の実行 | これまで学んだことや経験を活用し、どのような社会貢献が必要なのかを分析、判断し、社会貢献を実行できる。 | 学んだことやこれまでの経験を活用して、社会にどのように貢献できるかを考え、自ら率先して他者を巻き込み実行できる。 | どのような社会貢献が求められているのかを分析し、自らが貢献できることを具体的に導き出すことができる。 | 学んだことやこれまでの経験を活用して、どのような社会貢献が求められているのかを分析することができる。 |
| | | 社会貢献の考察 | | | | |



初年次ルーブリック

| 評価の観点 | 評価の観点の説明 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---------------------|--|--|--|-------------------------------------|--------------------------------|
| A 主張・論点の 提示 | 主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめているか。 | 主張や論点を明確にテーマに沿う形で十分に提示しており、伝えたい内容の要点を過不足なくまとめている。 | 主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめている。 | 主張や論点とテーマとの関連が認められるが、明確でない形で提示している。 | テーマに沿わない形で主張や論点を提示している。 |
| B 視覚情報・ 資料の扱い | 視覚的な情報（図表、イラスト等）や資料（配布物等）を効果的に使用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示しているか。 | 視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容を明確にわかりやすく提示している。 | 視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。 | 視覚的な情報や資料を一部必要に応じて扱っている。 | 視覚的な情報や資料を効果的でない形で扱っている。 |
| C プレゼンテーション全体の構成 | プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話しているか。 | プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で明確に話している。 | プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。 | プレゼンテーション全体を通して、一部筋道の立った順序で話している。 | 筋道の立っていない順序で話している。 |
| D 発表の態度 | 話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えているか。 | 話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、聴衆の反応を見ながら自信をもって伝えている。 | 話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えている。 | 話者の発表態度がプレゼンテーションの内容をある程度説得的にしている。 | プレゼンテーションの内容が伝わりづらい発表態度で話している。 |

科目における
ルーブリック
(後ほど紹介)



ループリックを活用した 学習成果の可視化とその支援



- 研修会の実施（これまでに26回）
 1. ランチオンセミナー＆FDフォーラム
 - ルーブリックについて知る
 - 既存のルーブリックを使って評価する
 - 自らルーブリックをつくる
 2. 学部における研修担当（初年次教育・外国語教育…）
 3. 動画配信
- ルーブリックの使い方ガイドブック配付
- ルーブリック活用事例を集めた読本配付

ルーブリックの使い方ガイド

- 教員用

- 学生用：

1. 学生がルーブリックの意義を把握できる
2. 教員がルーブリックの説明をしやすい

教員用

ルーブリックの使い方ガイド

ルーブリックとは

ルーブリックとは学習目標の達成度を判断するため、【評価の観点(規準)】と、観
点の尺度を段階的に分けて文章(記述語)で示した【評価の基準】から構成される評価
ツールを指します。

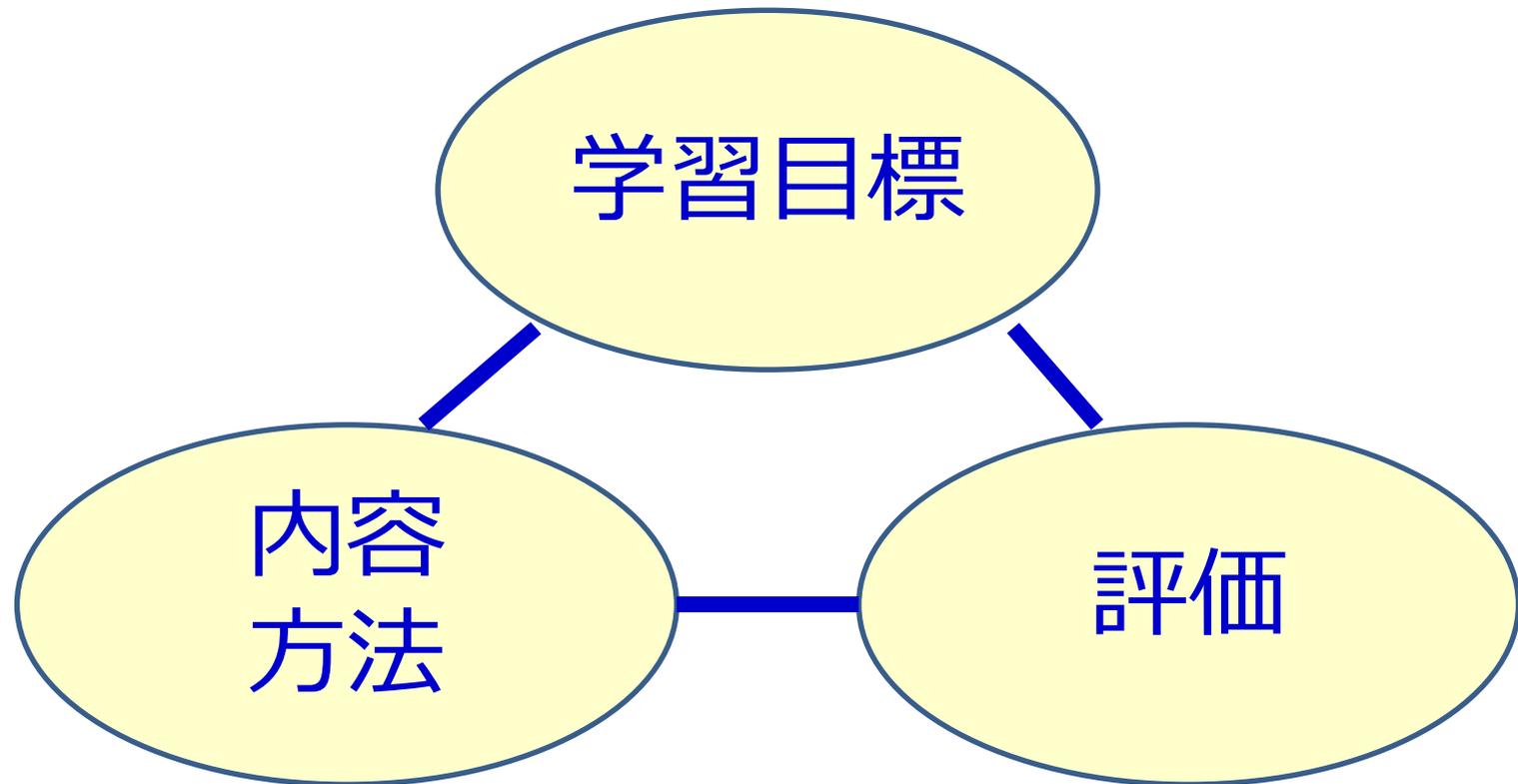
| | | 評価の基準 | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|---|---|--|--|
| | | 4+ | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 評価の観点 | A 主題・論点 の提示 | | 主題や論点を明確にテーマに 合う形で提示し ており、広えたい内容の要約をまとめている。 | 主題や論点を明確にテーマに 合う形で提示し ており、広えたい内容の要約をまとめている。 | 主題や論点を明確にテーマとの関連 が認められるが、明確でない 形で提示している。 | テーマに合わない形で主題や 論点を提示している。 |
| | B 視覚情報・ 資料の扱い | | 視覚的な情報 や資料を効果 的に扱っており、広えたい内 容を明確にわ かりやすく提示 している。 | 視覚的な情報 や資料を効果 的に扱っており、広えたい内 容を明確にわ かりやすく提示 している。 | 視覚的な情報 や資料を一部 必要に応じて 扱っている。 | 視覚的な情報 や資料を効果 的に扱っていない 形で扱っている。 |
| | C プレゼンテ ーションの 構成の整理 | | プレゼンテー ション全体を通 して、筋道を 立った構成で 明確に話してい る。 | プレゼンテー ション全体を通 して、筋道の 立った構成で 明確に話してい る。 | プレゼンテー ション全体を通 して、一部筋道 の立った構成で 話している。 | 筋道の立って いない構成で話 している。 |
| | D 発表の態度 | | 自身の発表意 図がプレゼン テーションの内 容を説明的にし ており、自信を もって広えている。 | 自身の発表意 図がプレゼン テーションの内 容を説明的にし ており、自信を もって広えている。 | 自身の発表意 図がプレゼン テーションの内 容を説明的にし ており、自信を もって広えている。 | プレゼンテー ションの内容が わかりづらい発 言態度で話して いる。 |

表1: プレゼンテーションに関するルーブリック

KANSAI UNIVERSITY



授業設計における3要素のバランス



鈴木克明（2008）「インストラクショナルデザインの基礎とは何か：科学的な教え方へのお誘い」
『消防研修』（特集：教育・研修技法）第84号（2008年9月）pp.52-68. より引用，筆者により一部修正



学習成果の可視化の先に

- 私はどこに向かおうとしているのか
- 私はたどりついたかをどう知るのか
→ループリックで確認
- 私はどうすれば向かうことができるのか

メージャー.R.F著、産業行動研究所訳(1974) 『教育目標と最終行動—行動の変化はどのようにして確認されるか—』
産業行動研究所,p.5.

鈴木克明(2014) 「2014年度 日本教育工学会 FD特別委員会大学教員のためのFD研修会ワークブック」



可視化された学習成果への対応

- 様々な可視化
- 情報技術によるコミュニケーションの可視化
(SNSの「いいね！」)
- 「見えなかったもの」「計測不可能だったもの」
が「見えるもの」「計測可能なもの」へ

宇野常寛(2013)「日本文化の論点」ちくま新書

- 学習成果の可視化
- 可視化して「明らかになったこと」に対する対応
を検討
- 説明責任, 学生が力を伸ばすための評価



ルーブリックを活用した 教育の質向上に関する事例



① 学習成果の多面的な評価

ルーブリックによる多様な学習活動の質的評価
直接評価と間接評価（自己・ピア）

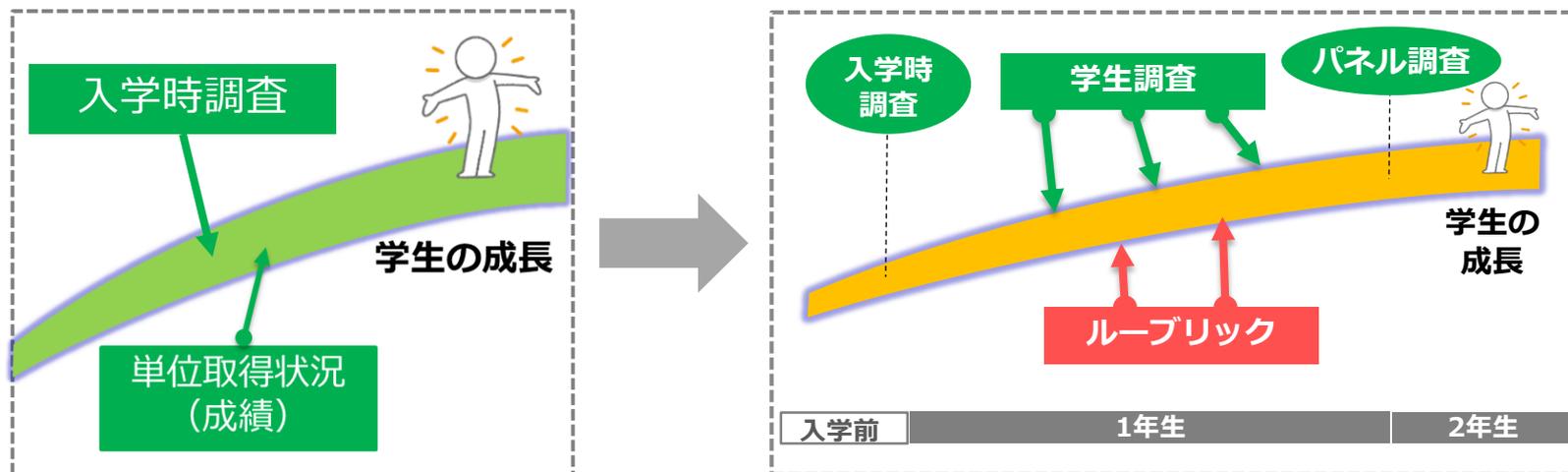
② 学習評価から学習支援へ

ライティングセンタールーブリックの開発と検証
正課外学習支援の評価と学生の振り返り

① 学習成果の多面的な評価

【A学部専門基礎科目】

- ・ 1年春の必修、25名×約30組、アカデミックスキル
- ・ 過去のアセスメント（単位取得・入学時調査）から…
→ キー科目としてカリキュラム改善
- ・ 学部と教育開発支援センター（CTL）による改善
→ 反転授業、ピアサポート、PBL学習（選択）の導入



① 学習成果の多面的な評価

【A学部専門基礎科目】

・ルーブリックによる質的評価

【例】文章作成課題のルーブリック

| ベンチマーク | |
|--------|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |



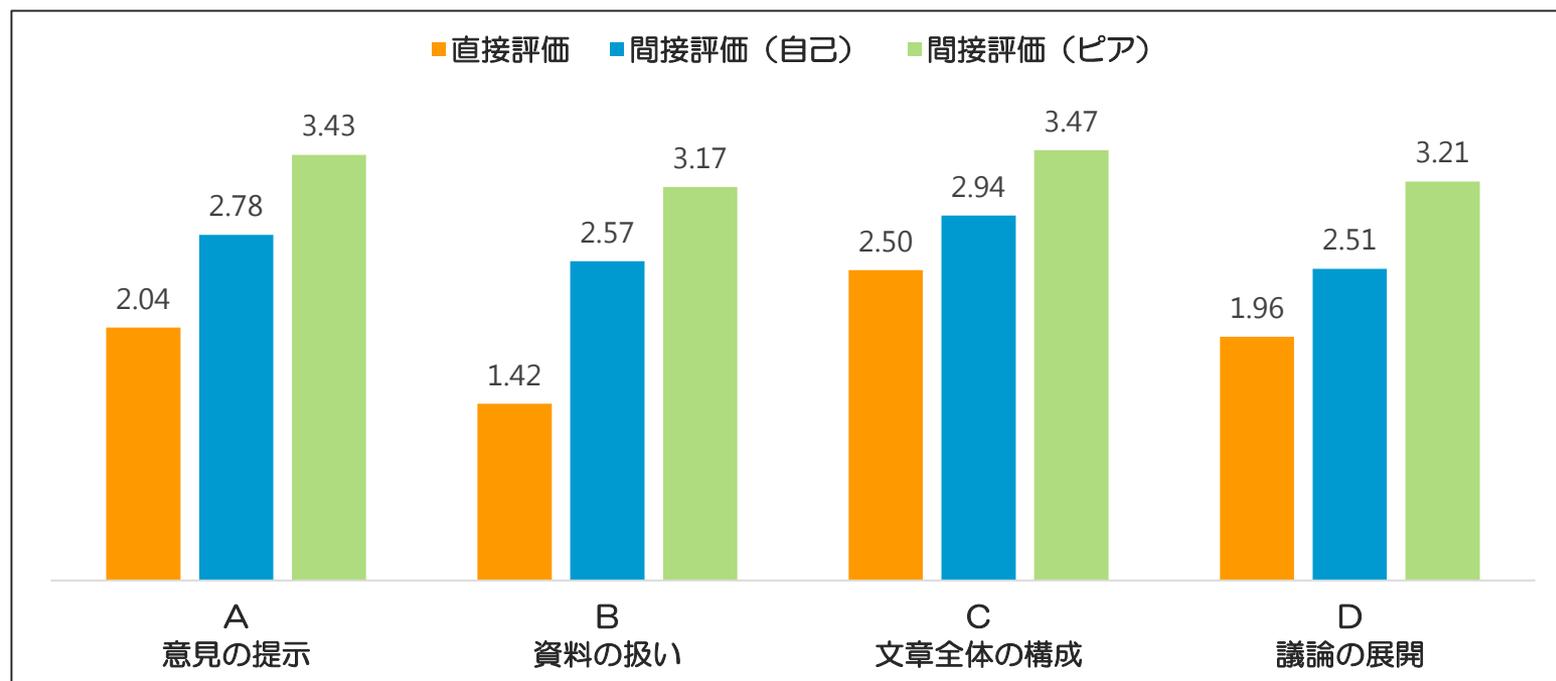
| 評価の観点 | 評価の観点の説明 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|--------------|---------------------------------------|--|-------------------------------------|---------------------------------|---|
| A 意見の提示 | 自分の意見を根拠とともに明確に提示しているか | 課題の解決に必要な資料を使用したうえで、自分の意見をわかりやすく述べている | 自分の意見を根拠をもとに述べている | 自分の意見を述べているが、課題と関連しない根拠をもとにしている | 自分の意見を述べていない |
| B 資料の扱い | 資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させているか | 自分の意見の根拠となる資料を、複数の信頼できるデータ※から探し出し提示している | 自分の意見の根拠となる資料を、信頼できるデータから探し出し提示している | 信頼できるデータを提示しているが、自分の意見と関連しない | 信頼できるデータを提示していない（不特定多数が編集可能なサイトや個人のブログなど、信頼性の低い情報を使用している） |
| C 文章全体の構成 | 序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理しているか | 序論・本論・結論の三部構成で、各論の内容をわかりやすく記述している | 序論・本論・結論の三部構成で記述している | 序論・本論・結論の、いずれかがない構成で記述している | 序論・本論・結論に沿わない構成で記述している |
| D 議論の展開 | 複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開しているか | 複数の視点から、自分の意見を根拠に基づいてわかりやすく、かつ論理的に展開している | 2～3の視点から、自分の意見を根拠に基づいて論理的に展開している | 偏った立場から、自分の意見を展開している | 偏った立場から、議論を展開しており、自分の意見を述べていない |

直接評価と間接評価（自己・ピア）

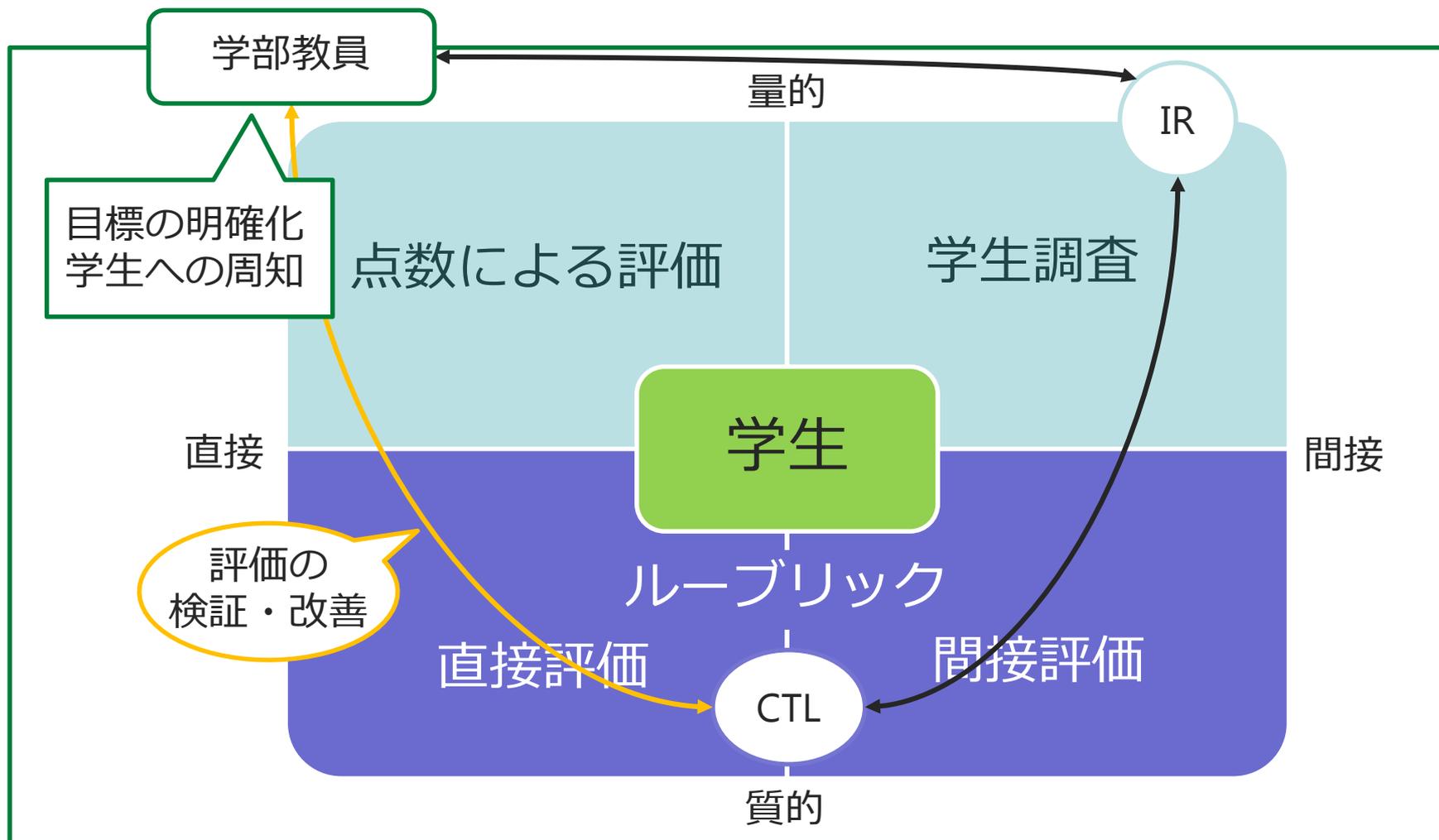
① 学習成果の多面的な評価

【A学部専門基礎科目】

- ・ 文章作成課題の評価
- ・ すべての観点で「直接評価 < 自己評価 < ピア評価」



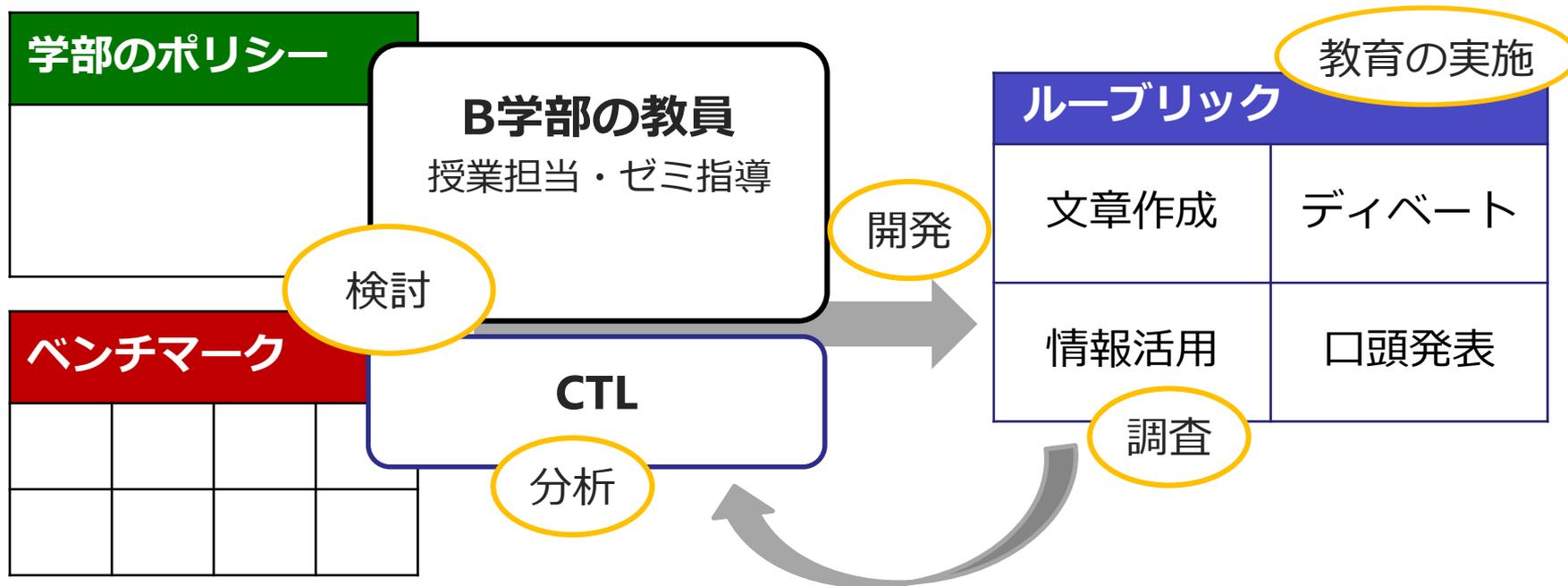
① 学習成果の多面的な評価



① 学習成果の多面的な評価

【B学部専門基礎科目】

- ・ 1年春の必修、25名×約30組、アカデミックスキル
- ・ 文章作成、口頭発表など多様な学習活動の評価



① 学習成果の多面的な評価

【B学部専門基礎科目】

・ 開発したルーブリック

期末レポートに関するルーブリック(想定する文章:論証型レポート、2000 字程度 対象:1・2 年生)

©関西大学ライティングラボ(吉田由似、毛利美穂、小林至道、西浦真壽子)

2016 年 6 月 24 日完成

| 評価の観点 | 自分の立てた問い(問題)に関する論証型レポートを作成しない | | | |
|-------------|---|---|--|--|
| | 評価の観点の説明 | がんばろう! | 優秀までもう一步 | 優秀 |
| ① 資料の取り扱い | 自分の意見を支える資料を3点以上選択し、十分な検討を最後まで行っているか ※資料とは、本、雑誌論文、新聞記事、Web 情報など、公表されたものを指す | 資料に関する記述がない | 資料が3点以上選択できている 自分の意見と取り上げられている資料との関連が分かりづらい | 自分の意見に関連する資料が3点以上選択できている 種類・年代において偏りなく集めた資料をもとに検討している |
| ② 問い(問題)の設定 | どのような問いに取り組むのが、明確に示されているか | 取り上げる問いが提示されていない 取り上げる問いの背景が提示されていない | 問いが具体的に絞られていない 問いと、その背景に関連がない 問いの背景(問いが生じた経緯、その現状分析)について、自らの体験や身の回りの出来事に基づいて述べられている箇所がある | 問いが、ひとつの疑問文の形で示されている 問いと、その背景に関連がある 問いの背景(問いが生じた経緯、その現状分析)について、自らの体験や身の回りの出来事ではなく、客観的な事実やデータに基づいて述べられている |
| ③ 自分の意見(答え) | 文章において何がもっとも書きたいことなのかが明確に示されているか | 自分の意見が提示されていない | 自分の意見が複数提示されており、何がもっとも書きたいことなのかが分かりづらい | 文章において何がもっとも書きたいことなのかが明確に示されている |
| ④ 論証(理由) | 論証を積み上げながら、自分の意見(答え)を導いているか | 自分の意見を支える客観的な根拠・データが提示されていない箇所がある | 自分の意見を支える客観的な根拠・データがすべて示されている 自分なりの解釈・説明が加えられていない(資料・データの羅列にとどまっている) | 自分の意見を支える客観的な根拠・データと、それに対する解釈・説明が示されている 自分の意見とは異なる立場の意見やデータを取り上げ、それに対する批判的見解を述べている |
| ⑤ 全体の構成 | 文章全体の構成が整っているか | 文章全体の構成ができていない | 序論・本論・結論を書くべき内容のいずれかが欠けている 各段落の関連がわかりづらい 本論で問い・自分の意見と関係のない根拠・データを用いたり、結論で新たな結論を書いている | 序論で取り上げている問題に対して、本論では論証(理由)が、結論では答えが示されている 各段落の関連が明確である |
| ⑥ 学術的な作法 | 用語の定義、引用のルールなど、学術的な文章として適切な作法が守られているか | 1~4の項目が満たされていない | 1~4の項目を満たしているが、5~8の項目のいずれかが満たされていない | すべての項目を満たしている |
| ⑦ 日本語の表現 | 日本語の文章として、表現・表記が適切であるか | 1~3の項目が満たされていない | 1~3の項目を満たしているが、4~8の項目のいずれかが満たされていない | すべての項目を満たしている |

⑥学術的な作法

- 1 表題、所属[学号番号・学部・学年]、氏名の基本的な情報が記されている
- 2 出典を明示しており、自分の意見と他者の意見を区別している(引用を明確に示すこと)
- 3 引用文として、wikipedia(括弧引き)や質問サイト(例 Yahoo!知恵袋)などを用いていない
- 4 巻末の文献表(参考文献一覧)があり、分野ごとのルールに沿って表記されている
- 5 必要に応じて、キーワードや専門用語などの定義付けがなされている
- 6 体言止め、略語を用いていない
- 7 字体(明朝体・ゴシック体)の使用が適切である
- 8 ページのレイアウト(行数・文字数、余白、ページ数の付与)が適切である
- 9 主観的表現(思う、感じる)を避けている

⑦日本語の表現

- 1 誤字脱字がない
- 2 文体が統一されている
- 3 話し言葉ではなく書き言葉を用いている
- 4 助詞(てにをは)、いら抜き言葉、重複表現など言葉遣いが適切である
- 5 意味がわからない一文がない(必要な箇所主題、目的語、SWITHがある)
- 6 文の作り方(主題・述語の呼称、句読点の打ち方、一文一義)が適切にできている
- 7 段落の作り方(段落はじめの一字下げ、一段落一主張)が適切にできている
- 8 接続表現、文末表現において同じような表現がくり返されていない
- 9 何を指しているのかわからない指示語がない

本ルーブリックは、2012(平成24)年度採択 文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「(考え、表現し、発信する力)を培うライティング/キャリア支援」で作成されたものです

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/useful/rubric.html>より閲覧・入手可



KANSAI UNIVERSITY

① 学習成果の多面的な評価

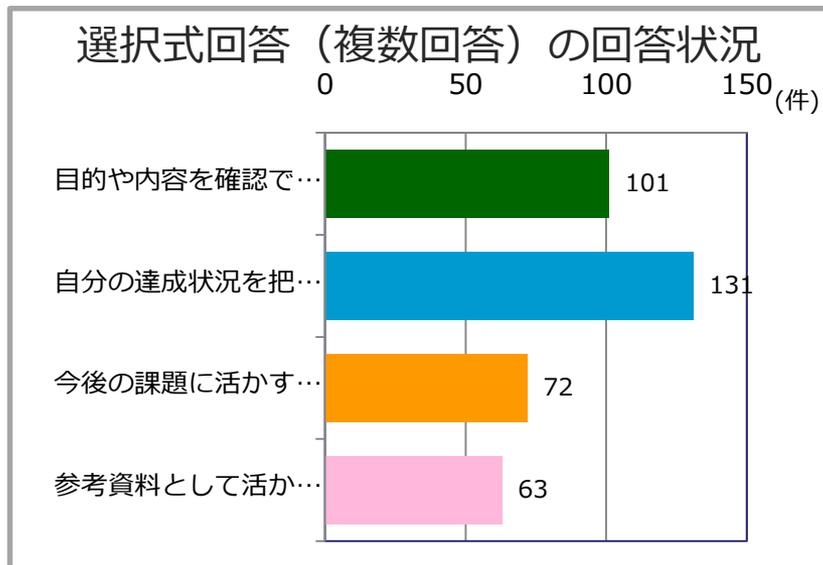
【B学部専門基礎科目】

・ルーブリックの分析・検討

学生アンケート調査

授業終盤で実施 履修者346人回答

質問例「ルーブリックを使用した際に感じたことを回答してください」



- 自由回答の回答例
- どこが自分に不足している点なのか客観的に見ることができた
 - レポートの評価基準を知ることができてよかった
 - 自分で評価するので少し甘くなってしまったこと
 - 評価の基準がよく分からない

① 学習成果の多面的な評価

【C学部入門ゼミ】

- ・ 1年春の必修、10組、スタディスキル
- ・ 情報収集、読解、文章作成、発表などの学習活動の評価

【C学部基礎ゼミ】

- ・ 2年春の必修、11組、アカデミックスキル
- ・ ディベート、プレゼンテーションなどの学習活動の評価

【D学部専門教育科目】

- ・ 2年春の必修、14組、アカデミックスキル
- ・ 資料読解、発表資料作成、発表などの学習活動の評価



① 学習成果の多面的な評価

ルーブリックによる多様な学習活動の質的評価
直接評価と間接評価（自己・ピア）

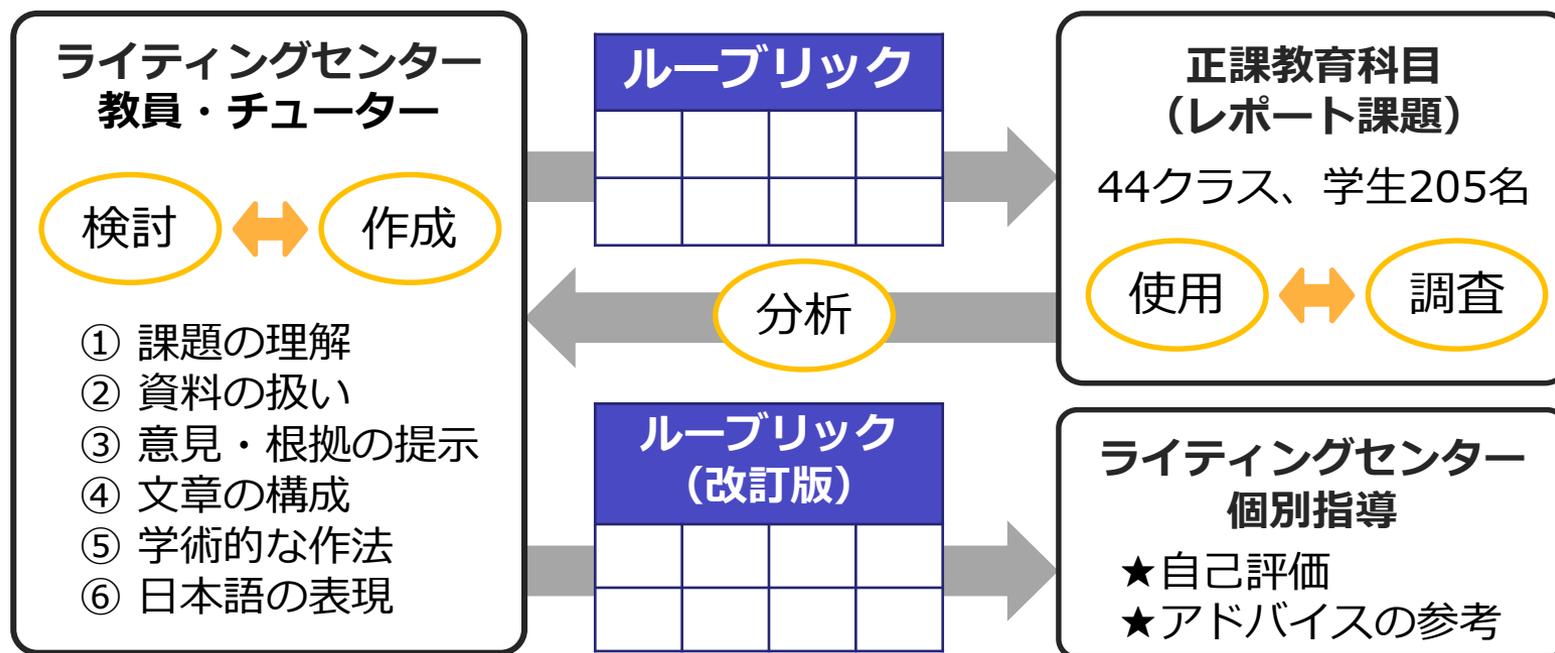
② 学習評価から学習支援へ

ライティングセンタールーブリックの開発と検証
正課外学習支援の評価と学生の振り返り

② 学習評価から学習支援へ

【ライティングセンターによるルーブリック開発】

- ・ 学部生のアカデミック・ライティングの学習支援
- ・ 文章作成のコモンルーブリックの開発・検証



② 学習評価から学習支援へ

【ライティングセンターによるルーブリック開発】

- 学生の自己評価ルーブリック
- 指導用のライティングセンタールーブリック

自己評価ルーブリック

ライティングセンタールーブリック

ライティングに関する自己評価のためのルーブリック
(調査する文章: 論議的レポート、2000字程度、科目: 12年度)

| ライティングに関する自己評価のためのルーブリック | | 関西大学ライティングラボ(毛利美穂、小林美穂、西浦真希子) 2016年2月23日完成 | |
|--------------------------|---|---|---|
| 評価項目 | 評価の基準の記述 | がんばろう! | もうまでする一歩 |
| ① 資料の取り扱い | 自分の意見に関連する資料を選択し、十分な検討をしてまとめられているか ※資料とは、本、雑誌、論文、新聞記事、Web情報など、収集されたものを指す | 資料に関する記述がない | 自分の意見に関連する資料が複数選択されている 重要な点に対して適切に集めた資料をまとめている |
| ② 自分の意見 | 文章において何がもっともよいことなのか明確に示されている | 自分の意見が提示されていない | 文章において何がもっともよいことなのか明確に示されている 自分の意見が、自らの体験や身の回りの出来事に基づいて述べられている |
| ③ 全体の構成 | 文章全体の構成が整っているか ※序論・本論・結論の区別については「レポートの書き方ガイド[基礎編]」の24～26ページを参照 | 文章全体の構成ができていない | 序論・本論・結論に書くべき内容のいずれかが欠けている 序論・本論・結論の対応関係が不十分である |
| ④ 学術的な作法 | 用語の定義、引用のルールなど、学術的な文章として適切な作法が守られているか | 1～3の項目が満たされていない | 1～3の項目を満たしているが、4～7の項目のいずれかが満たされていない |
| ⑤ 日本語の表現 | 日本語の文章として、表現・表記が適切であるか | 1～3の項目が満たされていない | 1～3の項目を満たしているが、4～7の項目のいずれかが満たされていない |

②学術的な作法
1 表紙、表紙裏(学号・学年)、氏名の基本的な情報が記されている
2 出典を明示しており、自分の意見と出典の意見を区別している
3 引用文として、webサイトや書籍等から引用した文章(引用)などを用いている
4 参考文献(参考文献一覧)があり、参考文献のルールに沿って表記されている
5 必要に応じて、キーワードや専門用語などの定義付けがなされている
6 学術的表現(シラブル)の使用が適切である
7 ページのレイアウト(行數・文字數、余白、ページ數の付与)が適切である

⑤日本語の表現
1 誤字・脱字がない
2 文法が統一されている
3 語彙が豊かで(漢字・カタカナ)が適切である
4 表現に「～は」「～は」「～は」が適切である
5 文の作りかた(主語・述語の呼称、句讀の打ち方、一文・一語)が適切である
6 漢字の使い方(漢字はひらがな・カタカナ・ローマ字)が適切である
7 敬語が適切に使われている
8 接続表現、文法表現において同様な表現が繰り返されていない

本ルーブリックは、2012(平成24)年度採択 文部科学省 大学間連携共同教育推進事業(「考え、表現し、発信する力」を培うライティング/キャリア支援)で作成されたものです

ライティングセンタールーブリック

© 関西大学ライティングラボ(小林美穂、毛利美穂、西浦真希子)
津田塾大学ライティングセンター(大塚悦子、飯野朋美)
2016年10月5日完成

| 書いた文章の有無 | 無 →①～④をチェック 有 →①～④をチェック | | レポート(論証型・報告型)・卒業論文 | レジュメ | スライド | 学生氏名: 評価日: 年 月 日 |
|------------|--|---|---|------------------------------|---|---------------------|
| | 相関文章の種類 | | 志望理由書 | その他(※課題によっては5の段階まで求めない場合がある) | 授業中の発表(口頭) | 評価者: 評価日: 年 月 日 |
| 観点 | 1 (がんばろう) | 2 | 3 (もうまでする一歩) | 4 | 5 (優秀) | 評価についてのメモ |
| ① 計画的性 | ・メチャク逆算して、何をしなければならぬのかというライティングのプロセスを整理できていない | | ・ライティングのプロセスにかかわる、情報収集や分析、推敲などにかかる時間が考慮できていない | | ・ライティングのプロセスを整理し、メチャク逆算して、推敲を含め、余裕をもち取り組んでいる | |
| ② 学びへの主体性 | ・課題に対して、どこか他人のよう、自ら取り組むとする姿勢が見られない | | ・課題に対して、より良いものになりたいと思っているが、他者に頼ったり答えを求めようとする | | ・何を問われているのか、課題の意図、書くべき内容を理解している | |
| ③ 課題理解力 | ・課題において、何を問われているのかわからない | | ・文字数だけにとらわれるなど、課題の意図、書くべき内容を理解が不十分である | | ・何を問われているのか、課題の意図、書くべき内容を理解している | |
| ④ 情報収集・分析力 | ・課題に関して必要な情報の収集方法(図書館・インターネット活用を含む)がわからない | | ・課題に関して必要な情報の収集方法(資料の内容・種類など)に偏りがある | | ・課題に必要な情報をどのように収集したかがわかっており、偏りな「複数集めている | |
| ⑤ 論議的思考力 | ・文章全体をとおして何が言いたいかわからない ・「なぜそう言えるのか」を示すための理由や根拠がない | | ・文章全体をとおして何が言いたいのかを絞りきれない ・「なぜそう言えるのか」を示すための理由や根拠が弱い | | ・文章全体をとおして何が言いたいかが一貫している ・「なぜそう言えるのか」を示すための理由や根拠が適切であり、多量や飛躍がない | |
| ⑥ 表現・発信力 | ・文と文の前後のつながりがない ・借り物のことばが多く、自分のことばを構えていない(コピーペーストが多数ある) | | ・段落ごとの前後のつながりがない ・自分のことばを構えていないが、コピーペーストが若干ある | | ・文と文、それぞれの段落を、適切な接続詞などを用いて論理的につなげることができる ・借り物でない自分のことばを用いて、自分の考えを表現し、発信できている | |
| | ・文中や文末の引用箇所(表紙)が適切でない(まっただけに守られていない) | | ・文中や文末の引用箇所(表紙)が適切でない(まっただけに守られていない) | | ・文中や文末の引用箇所(表紙)が適切である(完全に守られている) | |
| | ・誤字・脱字、文法の統一など、表現における問題が多数見られる | | ・誤字・脱字、文法の統一など、表現における問題が多数見られる | | ・誤字・脱字がなく、文法が統一されているなど、表現における問題がない | |

本ルーブリックは、2012(平成24)年度採択 文部科学省 大学間連携共同教育推進事業(「考え、表現し、発信する力」を培うライティング/キャリア支援)で作成されたものです

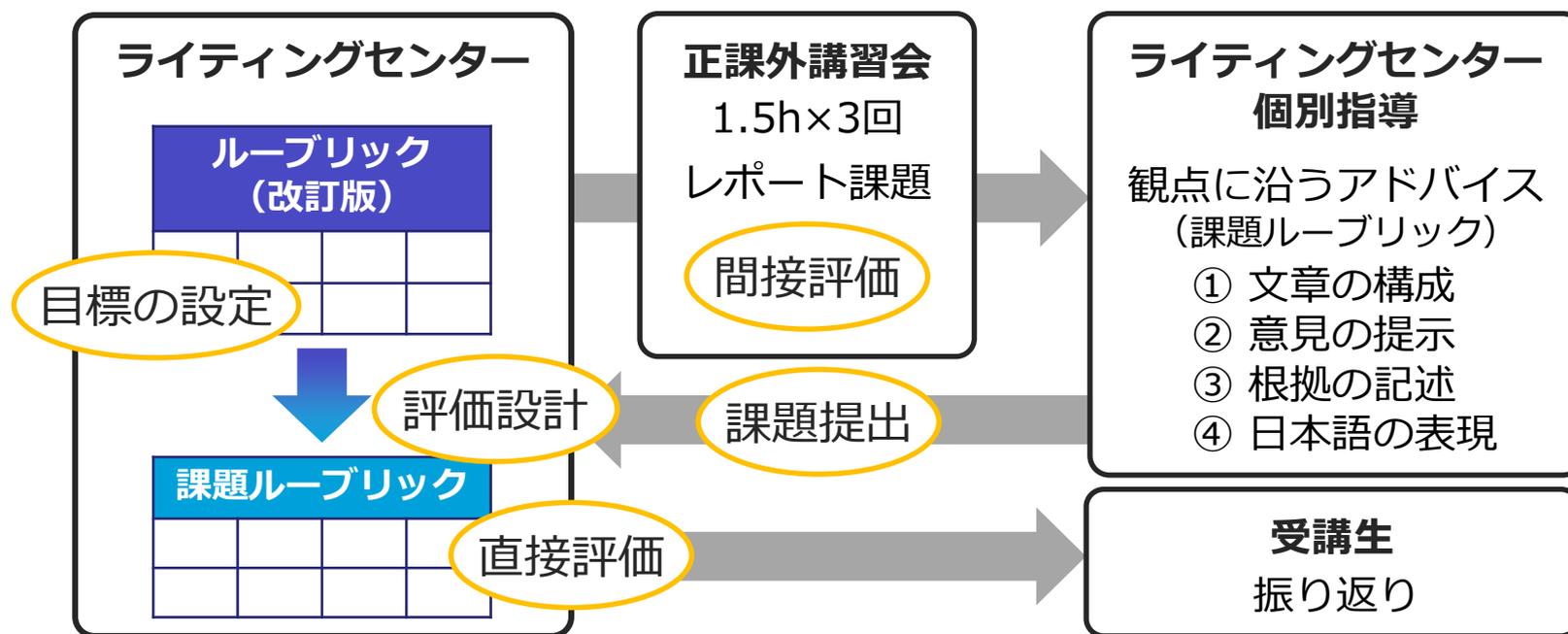
<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/useful/rubric.html>より閲覧・入手可



② 学習評価から学習支援へ

【ループリックを活用した学習支援】

- ・ 学生アスリート1年生（約110名）の正課外講習会
- ・ 文章作成課題の評価（直接・間接）、振り返り

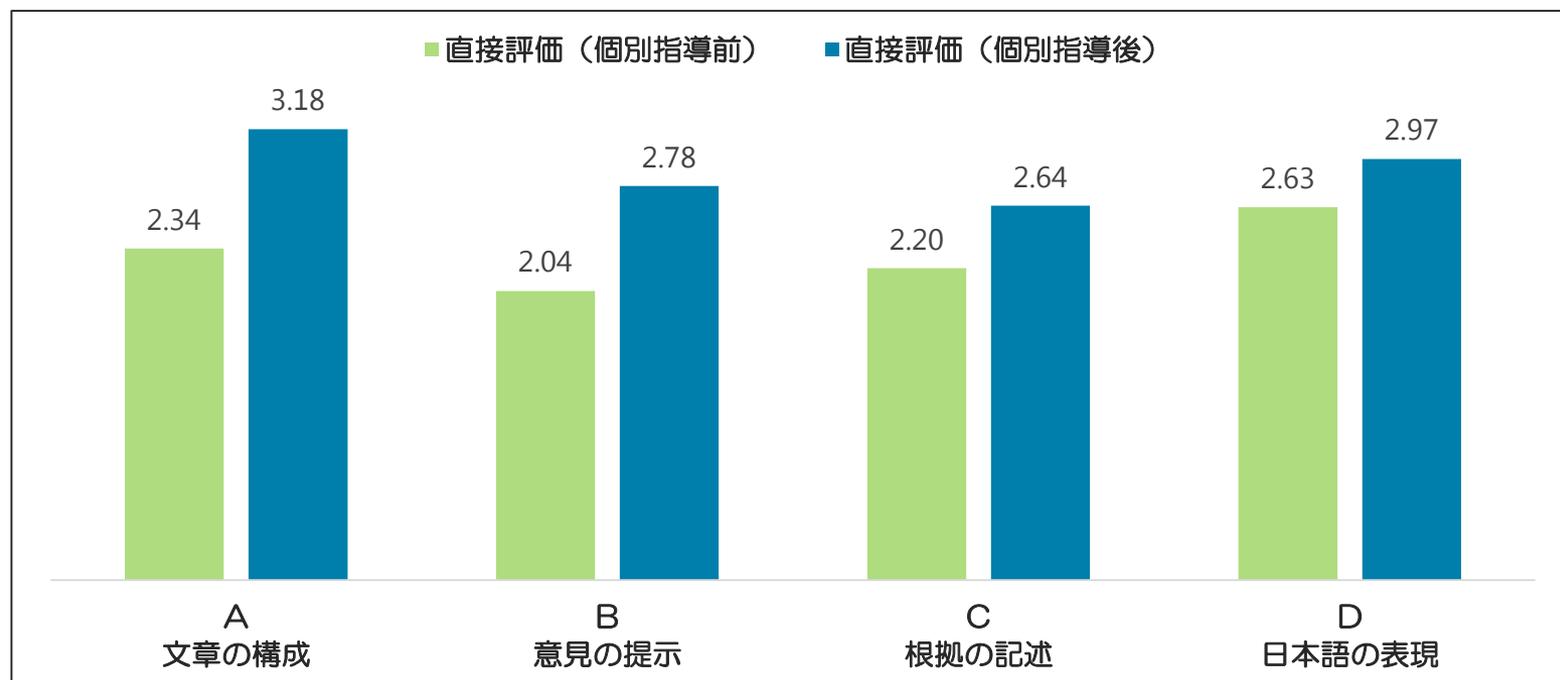


② 学習評価から学習支援へ

【ルーブリックを活用した学習支援】

・ライティングセンター個別指導の評価

個別指導前後のレポート評価



まとめ



まとめ

- 多様な観点, 評価方法による達成度の確認
- 量的な視点, 質的な視点の両方の側面に配慮した評価
- 学習成果にもとづいたFD, 学習支援の展開
- 評価方法のバランス : 説明責任と学生主体的に学ぶための支援

